

連休中各小屋の対応

【4月29日(土) 曇り後雨】

前日に青木氏から要求のあった押しピンとストーブのフェンス補強用のボルト・ナットを持って行仙宿に向かった。

R425の実利行者碑の前には幟が立てられ、車が20台ほど止まっていた。今日がお祭りの日だったようだ。



実利行者祭

自治君と別れる

行仙宿に着く

登山口に着くと、前方に山川自治君の車が停まっていた。モノレーで登る準備をしていると、自治君が空のポリタンクを担いで階段を降りてきた。朝から水を運んできたそうだ。

自治君とはここで別れ、行仙宿に向かった。お堂の前に幟が立てられた行仙宿に着くと、青木、坂田の二人が待

っていた。昼食を済ませてフェンスの補強を始める。



フェンスの補強



下山を始める



雨の中を下山

クロスバーの4ヶ所に穴を開けてボルト・ナットで固定。この補強でフェンスは十分な強度になった。持ってきたヤスリでアルミ材の角を丸く削り落としてフェンスの工事は終了。

午後2時過ぎから小雨が降り出したので、荷物をまとめて下山を始めた。  
(記：梶野)

行動タイム

二ヶ所補給路登山口↓12:21行仙宿14:50→15:20補給路登山口

【5月1日(水)晴】

持経宿と行仙宿に巡視を兼ねて小屋番の激励に向かった。バイクで先に持経宿に向かう。池郷林道は相変わらずの状態である。持経宿には玄関前にブルーシートが掛けられている。昨日の雨では役に立っただろう。小屋番を担当されている村吉さんの姿が見えな

い。道の補修に出かけているようで、暫くして戻ってこられた。小屋番のお礼と、今日の午後一旦自宅へ戻られるのでお土産を少々進呈する。白谷林道から行仙宿へ向かうつもりだったが、平治谷から先の通行確認が出来ていないとのこと、再び池郷林道経由で行仙宿に向かった。29日、30日は雨の為宿泊者は少なかったそうだ。



池郷林道ゲート

持経宿に到着

玄関前にブルーシート

行仙宿の登山口に着くと、児嶋、乾、湯川の3名でモノレール駐機場に屋根を作る工事中だった。ほぼ完成していて、明日の午前中に工事を終える予定だそうだ。お昼前になり行仙宿まで登る。青木、坂田のお二人も小屋番を継続すること、下山した。

(記：沖崎)

【5月2日(火) 晴】

持経宿は4月29日から5月1日まで、と5月3日から5日まで、は村吉さんが小屋番に入る予定なので、真ん中の5月2日の穴を埋

めるために持経宿に向かった。

パンクしないように時速20km位で池郷林道をゆっくり進み、午前11時過ぎに持経宿到着。

幟が立てられ、小屋前にはブルーシートが張られていた。用意してきた玄関灯の取り付けを始める。

お昼過ぎから逆峰の縦走者が次々到着し、工事は度々中断。「コーラはありますか？」の問いに、倉庫のカギを持ってこなかったため、行仙宿まで行ってください。行仙宿にコーラもビールもあります。とお願ひした。30分ほどで玄関灯の取り付けを終えるつもりだったが、登山者との会話もあって1時間半もかかってしまった。午後2時を過ぎてやっと昼食を摂る。

玄関前の水を入れたポリタンク3個がほぼ空になっていた。



平治谷で水汲み

持経宿の水場

本日の宿泊者

平治谷の水、と書いてあるのでポリタンクを車に積んで平治沢に向かう。白谷林道も慎重に進み、途中一ヶ所で落石を動かしたが無事



に平治谷に着き、ポリタンクに半分くらいずつ水を汲んで小屋に戻った。

小屋から歩いて持経宿の水場に向かう。雨の後なので、水場の流れは多くなっているがホースからの水は若干少ない。取水口まで登ると枯葉が4〜5枚詰まっていた。枯葉を取り除き、下のホースの継ぎ目を外すと泥が噴き出した。ホースの掃除で先端からの水も勢いよく出るようになった。水場から戻ると本日宿泊の一行が到着していた。この一行は明日行仙宿に泊るので、明日は行仙宿でお会いしましょう。と告げて下山した。  
(記：梶野)

### 行動タイム

10:50 池郷林道ゲート→11:15 持経宿 15:55→16:18 池郷林道ゲート

### 【5月2日(火)】

5月1日帰宅後に携帯電話が無いことに気付き、電話をかけてみたが、電源が入っていないか電波の届かない所にいます、とのメッセージが流れるだけだった。小屋に置き忘れたか途中のどこかに落としたかに違いない。“エライコツチャ!” 朝から行仙宿に向かうと昨日に引き続き見嶋、乾さんが工事中で完成一歩手前だった。

「荷台に落ちてたぞ」との一声でヤレヤレ一安心する。落とさないように携帯電話を持って小屋に向かい、早めに下山した。

帰宅後、四日市南警察から行方不明者の問い合わせがあった。行方不明者は後日無事下山した。

(記：沖崎)

### 【5月3日(水) 晴】

5月3日から5日まで山本、志岐のお二人が行仙宿で小屋番を担当してくださるので、吉野口駅で二人を拾って行仙宿に向かった。今日は3連休の初日でお天気もいいので通行車両が多く、普段は一回の信号待ちも3回待つようなところがあって、待ち合わせの時間を20分過ぎてしまった。



屋根が出来ている

前夜持経宿泊の一行

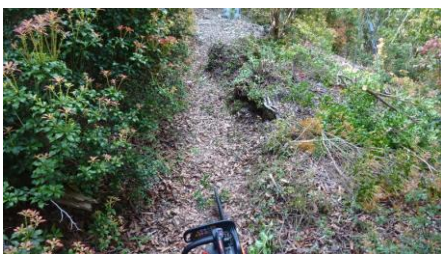
倒木処理

午後1時過ぎ、登山口に着くと29日には無かったテント屋根がモノレールの上に出上がっていた。今日は沖崎さん達が朝から登っていて、モノレールを降ろすために歩いて登らねばならないと思っていたが、搬器は降ろされていたため登る必要は無かった。

午後1時過ぎにモノレール終点に着くと沖崎さんと阪口さんが待っていてくれた。

行仙宿では、昨夜持経宿に泊った一行が到着して休憩中だった。山本さん手作りのお弁当を頂き遅めの昼食とする。

食後、行仙岳までの倒木処理に向かう。沖崎さんから「段差補修用の木材を探してほしい」と頼まれたので、一度行仙岳に登って捲き道を経由して小屋に戻った。



倒木処理

アセビを切除

倒れそうな石柱

行仙宿小屋直近の倒木は先日切除したが、まだ2本が残っている。2本とも行仙岳迄の半分くらいの場合で、直径20cmほどの枯れ木だった。切除は5分位で終了、行仙岳手前でアセビの藪を切り取った。行仙岳から捲き道分岐に降りる。世界遺産の石柱はかなり傾いて、以前付けた倒れ防止材でかろうじて倒壊を免れている状態だ。捲き道から間伐用の作業道を少し下って適当な太さの間伐材を集めた。急斜面なので運び上げるのに時間が掛る。午後4時を過ぎたので捲き道を小屋へ戻る。捲き道の南側分岐手前で下方にちょうど良い太さの間伐材が3〜4本転がっているのを見つけた。20m位下なのでロープを使って引き上げる必要がある。そうだ。行仙宿に帰る途中、坂田さんがサンダル履きで登ってきた。

帰りが遅いので迎えに来てくれたらしい。



間伐材を集める

チェーンソーを清掃

夕食

行仙宿に戻ると沖崎さん等新宮組はすでに下山していた。本日宿泊の登山者も次々到着し、10人を超えた。チェーンソーを清掃し管理棟で今日の小屋番4名の夕食を見届けて下山した。既に日没を過ぎて真っ暗だった。(記：梶野)

### 行動タイム

13:06 補給路登山口↓13:40 行仙宿 14:12↓15:02 行仙岳↓15:11 北側捲き道分岐↓16:25 南側捲き道分岐↓16:50 行仙宿 19:05 ↓19:40 補給路登山口

【5月3日(水)】

沖崎、濱野、大江加・徳、阪口の5名で行仙宿に向かう。



大江さんは宿泊者に振舞うおでんをたくさん作って下さり、畑林君差し入れのマグロのカマと併せて今夜の行仙宿は賑わうだろう。今日から5日まで山本、志岐のお二人が小屋番に加わってください。到着が午後1時頃となっていたので、到着を待つ間モノレール終点横の段差補修を行ってから下山した。

(記：沖崎)

【5月4日(木) 晴】

5月4日は行仙宿に向かう予定は無かったが前日に青木君から電話があり、ビールとコーラの在庫が少ないので持ってきてほしい、との依頼があった。缶ビール2ケースとコーラ1ケースを荷揚げして下山した。

(記：沖崎)

【5月5日(金) 晴】

5月5日は山本さん志岐さんの小屋番が終わるのでお迎えに行き仙宿に行った。中前、内野井、谷口の3名が5日、6日と小屋番を務める。



30kg越えを



お堂で勤行継の



窟へ降りる



最後の登り



継の窟



本日の参加者

10分ほど滞在して行仙宿に戻った。奥駈道で縦走者2名が行仙宿

午前11時、登山口で待ち合わせモノレールに荷物を積んで終点に向かう。中前さんは歩いて登ったが、体調が芳しくないようでの時間の時間を要した。終点からクーラーボックスや食材などの背負子(20kgほど)を内野井君が担ぎ、自分のザック(10kgほど)を前に抱えて行仙宿に向かった。行仙宿までの距離は大して長くは無いが、30kgを越える荷物を運ぶと、現役とは言え大変だったらしく、後日「しんどかったです」と話していたそうだ。行仙宿に着いてお堂で勤行、昼食を摂って帰り支度と思っていたが、山本さんが継の窟に行きたいということで、山本、志岐、谷口の3名を連れて継の窟へ向かった。奥駈道の継の窟へ下るところまでは難無く来たが、太いロープを伝って下る沢で山本さん苦戦。その後も登り返しの岩場で下から谷口さんの指示を受けて一歩々と進んで継の窟に到着した。

方向に通過した。午後3時過ぎ、お堂前で写真を撮って下山した。  
(記；梶野)

### 行動タイム

11:00 補給路登山口→12:02 行仙宿 12:50→13:40 継の窟 13:  
50→14:45 行仙宿 15:14→15:46 補給路登山口